

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 6/20 第10号 文責 林

学校教育目標 「自らの未来を切り拓く、心豊かな生徒を育成する」

チャレンジ体験を終えて（その1）

2年生は、5月31日（火）から6月3日（金）まで4日間の「生き方探究チャレンジ体験」を行いました。遅くなりましたが、2年生のチャレンジ体験を終えての感想を紹介します

僕はチャレンジ体験をして、たくさんのことを学んだ。学んだことの中で特に印象に残ったことは主に三つある。まず一つ目は、社会に出ると、学校生活以上に「あいさつ」が大切になるということだ。僕の行った事業所「日本カラーフォト」の従業員の方は、出勤した時や仕事を終えて帰宅する時、昼食を食べに行く時に、大きな声であいさつされていた。もちろんお客様が来た時も。お客様が来た時に大きな声であいさつができるのは、普段から社内で大きな声であいさつすることを心掛けておられるからだと思う。お客様が来た時に大きな声であいさつをすれば、お客様がもつ店の印象が良くなり、売上げも上がる。なので、「あいさつ」はとても大切なことなんだと、改めて実感した。二つ目は、とても積極的に仕事をしておられることである。事業所の方は、昼食を食べに行っている時以外は、ほとんどパソコンに向かっていたり、取引先と電話をされているか、接客されているかどれかである。つまり、何もすることがなくて、ボーッとしたりされている所を見かけなかった。自分の仕事が終われば、他の従業員の方に声をかけて、手伝うことはないか、しなければいけないことはないかを聞いて、仕事をされていた。とても積極的だと思った。三つ目は従業員の方々はとても楽しそうに仕事をされていたことだ。従業員方は本当に、この仕事が好きで、この仕事をされているのだと思った。好きな仕事をされているからこそ、大きな声であいさつができ、積極的に仕事ができるのだと思った。

一つ目、三つ目は基本のことで、特に一つ目のあいさつが大切であることは今の学校生活でも大切なことだと思う。これからは、将来のためにも、あいさつをしっかりと、勉強や部活も積極的にがんばっていききたい。

僕が、将来つきたい仕事は鉄道に関する仕事だ。そのきっかけは、旅行でローカル線に乗った時のことだった。その路線は一日に三本しか列車が走っていない路線で、その列車の乗客は僕と僕の家族、僕の友達の五人だけだった。列車交換のために駅に停まった時に、僕はその列車の運転手さんと少し話をした。その時の話の内容から、その運転手さんは、よそのローカル線がとても好きで、鉄道もとても好きでこの仕事をされているのだと思った。今回行った「日本カラーフォト」でも、従業員の方々はその仕事が本当に好きそうだった。僕も本当にしたい仕事に向かって、努力していきたいと思う。

